**第１６回（平成２６年度）**

岩手県　　　　　　　（ぶどう）

　　　　 ・

雨よけ施設ぶどう160ａの大規模ぶどう経営である。

経営面では、自宅の直売所での販売を中心に、家族３人と臨時雇用5人で、多品種の展示や詰め合わせなど対面販売を工夫しているほか、家族経営協定で家族内の業務分担の明確化を図っている。

全園地に雨よけ施設を導入し、裂果抑制、成熟前進化、果粒肥大促進で有利販売と品質向上を図っている。

消費者嗜好に対応して70種の多品種を栽培し、労働分散と気象災害の回避を図るとともに、短梢せん定できる品種の導入により省力化を図っている。

県下で最初に大粒品種を導入し、約100品種の試験導入により独自に寒冷地への適応品種の選定や栽培技術、各種生育調整剤の使用法の確立、県奨励品種「紅伊豆」の産地化などに貢献している。

地域で第1号のエコファーマーであり、環境にやさしい農業を実践するとともに、県農業農村指導士、ぶどう技術アドバイザーとして大粒ぶどう栽培技術の普及に尽力している。

　　（公益財団法人中央果実協会理事長賞を受賞しました。）